



Taka Ishii Gallery

Photography / Film

5-17-1 2F Roppongi Minato-ku Tokyo #106-0032, Japan

tel 03 5575 5004

fax 03 5575 5016

web www.takaishiigallery.com

email tigpf@takaishiigallery.com

花代「hanayo IV - Keep an Eye Shut I」

会期: 2021年8月6日(金) - 9月11日(土)

会場: タカ・イシイギャラリー フォトグラフィー/フィルム

タカ・イシイギャラリー フォトグラフィー/フィルムは、8月6日(金)から9月11日(土)まで、花代個展「hanayo IV - Keep an Eye Shut I」を開催いたします。

80年代末よりそのキャリアをスタートした花代は、芸妓、モデル、女優、歌手、パフォーマー、写真家、アーティストなど多領域を横断しながら「花ワールド」(Jérôme Sans)と評される無二の世界観を根源に独自の表現を展開してきました。この度、デビューから30年に渡る写真活動を総括する写真集『Keep an Eye Shut』の刊行を記念して、POST、アニエスパー ギャラリー プティック、タカ・イシイギャラリー フォトグラフィー/フィルムの3か所で個展を同時開催いたします。本展では、1996年に開催されたタカ・イシイギャラリーでの初個展「花代」での展示作品を含む、1989年頃から1996年頃までの初期作品を中心に展示いたします。

中学校で写真部に入部した花代は、祖父の形見として父親からオリンパスのハーフサイズカメラを譲り受け、1989年頃から身の回りの事象や出会った人々を写真に収め始めます。高校時代には友人と同人誌「女子高中生通信」を創刊するほか、カルチャー誌『宝島』の連載小説「東京トンガリキッズ」でモデルを務めました。19歳で半玉修行を始め、日本のテレビ番組や舞台などへ出演し、イギリスの雑誌『ザ・フェイス』の表紙を芸妓姿で飾るなど、一躍時代のアイコンとして活躍の場を広げていきます。それらの活動の傍ら写真を継続的に撮り続け、ロンドンへ渡った1996年に『ハナヨメ』で写真家としてデビューし、ヴィヴィッドで瑞々しいイメージで注目を集めます。1999年にベルリンへ移住すると、奇才と呼ばれる映画監督クリストフ・シュリンゲンズィーフと出会い、彼の舞台やパフォーマンスへの出演を重ねます。2010年に帰国後、新たな試みとしてモノクロ写真に取り組み始め、現在まで東京を拠点に写真を発表しつづけています。

本展では、その活動の前期にあたる1989年頃から写真家としてデビューした1996年頃までに撮影された初期作品を展示いたします。1996年は、のちに花代の作品世界において欠かすことのできない重要なモチーフとなる愛娘・点子が生まれた年でもあります。本展にて展示される点子誕生以前の作品では、東京にある実家の一室や留学先のパリで撮影された作品が多くを占めており、点子をはじめとした花代の周辺の人々が頻りに登場する渡英以降の作品とは対照的に、当時集めていたオブジェや人形などのおもちゃを被写体とし、彼女が生み出した虚構の景色が切り取られたシュルレアリスティックな世界が広がっています。花代は、これまでポートレート、日常風景、アブストラクトなイメージなど、日常の身边を心惹かれるままに撮影し、ハーフサイズカメラによる魅惑的な色彩やアナログの繊細なニュアンスに加え、露出過不足、現像ムラなど偶然の産物を取り入れることで現実世界とはどこか異なる空想的な世界を結実させてきました。本展にて展示される初期作品にも既にそうした特徴が随所に表れており、作品の一貫性を見ることが出来ます。

表現とは一体何なのか。そんな事は舞台で何百回恥をかこうが、死ぬまで写真を撮り続けて、展覧会を半世紀やり続けようが、私には分からない。ただ言える事は、表現は自由のもとにしか存在しない。

花代『花代の世界 地下活動半世紀』より抜粋

単一の枠に留まることなく、多領域における特異な拡がりや連関の中で創作を展開し続ける花代は、これまで発表した写真作品の殆どにタイトルを付けずシリーズ化もしないなど、自身の作品においても特定の固有名詞やあらゆるカテゴリーとの結び付きを拒みます。そうして送り出されたイメージは、その独自のトーンをもってゆるやかに連鎖し、更には内包された時間や空間、場所などの付随情報からも解放されることで、この世界の美しさと儚さが交錯する花代の作品世界を形成しています。

本展の開催と同時期に下記の会場にて花代の展覧会が開催されます。

【同時開催】

「Keep an Eye Shut III」

会期: 7月24日(土)~8月15日(日) 月曜定休

会場: POST 東京都渋谷区恵比寿南 2-10-3 Tel:03-3713-8670

「Keep an Eye Shut II」

会期: 7月28日(水)~9月8日(水) 定休なし

会場: アニエスベー ギャラリー ブティック

東京都港区南青山 5-7-25 ラ・フルール南青山 2F Tel : 03-3406-6010

本展の開催と同時期に、下記の作品集が刊行されます。

【新刊情報】

花代『花代の世界 地下活動半世紀』

河出書房新社刊 (2021年)、単行本、A5判、320頁

宇川直宏、榎木野衣によるテキスト収録 (日本語・英語)

販売価格: 4,620円 (税込)

花代『Keep an Eye Shut』

torch press / KEHRER 刊 (2021年)、ハードカバー、16 x 23 cm、304頁、図版 306点

伊藤貴弘、カイ・アルトホフによるテキスト収録 (日本語・英語)

販売価格: 6,380円 (税込)

展覧会会場にて先行発売 (8月中旬一般発売予定)

1970年東京都生まれ。玉川大学文学部美術学科彫刻専攻在学中にパリへ留学、その後1989年に向島で半玉修行を始める。1995年に花柳界を引退し渡英。現在、東京・ベルリンを拠点に、写真家、芸妓、ミュージシャン、モデルとして多方面で活動を展開。自身の日常を幻想的な色彩で切り取る写真やコラージュ、またこれらに音楽や立体表現を加えたインスタレーションを発表。国内外での多数のグループ展・国際展に参加、ライブ・パフォーマンスも行う。主な個展に「ウツシュメクニ」PARCO GALLERY（東京、2000年）、「hanayo」Palais de Tokyo（パリ、2002年）、「hanayo III」タカ・イシイギャラリー フォトグラフィー/フィルム（東京、2017年）など。主な作品集に『ハナヨメ』新潮社刊（1996年）、『MAGMA』赤々舎刊（2008年）、『berlin』月曜社刊（2013年）、『点子』Case Publishing 刊（2016年）、『花代の世界 地下活動半世紀』河出書房新社（2021年）など。主な音楽アルバムに「wooden veil」（dekorder、2009年）「Gift /献上」（DHR Geist、2000年）など。

是非、貴誌・貴社にて御紹介下さいますよう宜しくお願いいたします。

尚、掲載用写真の貸出など、御質問がございましたら下記までお問い合わせ下さい。

タカ・イシイギャラリー フォトグラフィー/フィルム 展覧会担当: 見目 茜 プレス担当: 水谷 彩

〒106-0032 東京都港区六本木 5-17-1 AXIS ビル 2F tel: 03-5575-5004 fax: 03-5575-5016

e-mail: tigpf@takaishiigallery.com website: www.takaishiigallery.com 営業時間: 12:00-18:00 定休日: 日・月 祝日



Hanayo
“Untitled”, 1997
C-print
© Hanayo



Hanayo
“Untitled”, 1998
C-print
© Hanayo